



ツール・ド・リムザン女子レースでのRGJチームの顔ぶれ。左よりヴァレリー・サペナ、ミレイユ・ロビン、堀、松田、明珍、そしてジェネヴィエー・ウィッソン。日本とニュージーランド、フランス混合チームであったので、基本的には英語で会話、市川監督がフランス語でフォローした

へ一面から続く。そして、二日にツール・ド・リムザンの受付：のはずが一日目個人TTキヤンセルの知らせとともに、受付場所も変更されたという項目を私が読み落としていたために、受付時間に遅刻してしまっただけ。しかし主催者に市川氏が電話連絡、私が受付で平謝りして何とかOK、その後の監督会議にも間に合い事なきを得る。

その場でブルターニュのレースにも手伝いに来ていた主催者LECOURT氏と再会。他のスタッフにも挨拶したのだが、その中で遅刻連絡の間に入ってくれたLECOURT氏の娘さんと、選手ピックアップを手伝ってくれた女性スタッフ(彼女はジャパンカップが女子国際レースだった頃に出場のため来日の経験もあり)が、RGJチーム合流のミレイユ・ロビン選手(MTBマスターズ世界選手権チャンピオン)と仲が良いということもあり、この後のレース期間中に様々なフォローを

してくれた。細かいトラブルはあったものの二十三日から15日間、フランスの四日間はスタートした。このレースは、ブルターニュと違い毎日の宿泊が移動しない形式のレースだったので、ラクかと思っていたが、そのために毎日、遠いスタート地点へ、そしてゴール地点からの帰途と長い移動が大変だった。

今回はチームとして監督・メカニックを市川氏、マネジメントとマッサージを須藤で分担という超少数人数体制だったため小回りは効いたが、スタッフ一人に対する負担が非常に大きかった。これは今後の改善点としたい。そこで、海外遠征も含め資金の確保と、遠征先現地での交流を通じたスタッフ確保も急務である。この実現のためには、今までのように定期的に欧州遠征を続けていき、さらに長期で滞在できる女子選手の支援できる体制作りを、さらに進めていきたいと考えている。



↑いわてのRGJチーム、左から松田・武田・堀・吉井、→レース準備風景

このレースの主催は地元・岩手県自転車競技連盟。元々は岩手県も含めた東北を巡る「ツール・ド・とうほく」の後を引き継ぐかたちで運営・開催。特に「とうほく」で培ってきた男子ジュニアと女子の育成と強化が目的のレースであるが、今回は宿泊を「ホテル安比グランド」一箇所のみとしてチームの負担となる「移動」を最小限にしレース中に留まること、地元根付いたレース運営をおこなうことで、近い将来は地元「お

祭りのような位置づけにもなる」と思われる。

今回のレースでは、地元メディアも取材に訪れ、岩手日報には今レースの報道とともに、RGJチームについても取り上げていただいた。これは、レースそのものへの関心はもちろんのこと、現在、日本でも唯一女子ロードレースチームとして活動をしているチームのビジュアル・インパクトにもあったようだ。

なお、会場では多くの方々にご声援をいただき、チームオリジナルのポストカード配布などのPR活動も活発におこなった。

七月十日から十二までの三日間、四ステージで開催された「第一回ステージロードレース いわて」にReady Go JAPANチームは堀友紀代、松田千裕、吉井玲香、武田和佳の四選手が出場、さらに、高体連選抜女子チームとしてJCFジュニア女子強化指定選手である下久保初菜選手も出場し、岩手県を舞台とした男子高校生と女子の「チーム」で競う日本でも唯一のレースで熱い走りを見せた。

八月三十日(日)に開催されたヒルクライム・ロードレース「第二十四回全日本マウンテンサイクリング in 乗鞍」にて、Ready Go JAPANの吉井玲香選手が、ロードレース女子Aのクラスで優勝、女子全体の総合でも、女子Bクラス優勝の中込由香里選手に続き二位という快挙を果たした。

このレースは非常に人気が高く、参加応募も募集初日で定員いっぱいになってしまったため、今年からは抽選による募集方式に変更となるほど。そんな大人気大会はイベントとしてのお祭り要素とともに、ヒルクライムレースの最高峰として目標としている参加選手も多く、女子もB(三十六歳以上)とあわせて二百名以上のエントリー。

その中で吉井選手は今回、初出場にも関わらず日頃の練習の

# いわてステージレースで見える 日本ジュニア選手強化育成の姿

# RGJチーム、 大人気3レース で優勝者連発!



乗鞍レースの女子2クラスの優勝者同士で。左がRGJ吉井玲香、右は中込由香里(Sy-NAK)

成果を発揮するため、入念なウォーミングアップなど行う。県秩父市にて開催されました「第五十七回秩父宮杯埼玉県自転車道路競走大会」の女子レースにおいて、RGJの武田和佳、松田千裕両選手が出場。武田選手が優勝を収め、松田選手も六位入賞を果たした。なお、武田選手は昨年も同大会において優勝しており、二連覇達成となった。

八月三十日(日)に開催されたヒルクライム・ロードレース「第二十四回全日本マウンテンサイクリング in 乗鞍」にて、Ready Go JAPANの吉井玲香選手が、ロードレース女子Aのクラスで優勝、女子全体の総合でも、女子Bクラス優勝の中込由香里選手に続き二位という快挙を果たした。

このレースは非常に人気が高く、参加応募も募集初日で定員いっぱいになってしまったため、今年からは抽選による募集方式に変更となるほど。そんな大人気大会はイベントとしてのお祭り要素とともに、ヒルクライムレースの最高峰として目標としている参加選手も多く、女子もB(三十六歳以上)とあわせて二百名以上のエントリー。

その中で吉井選手は今回、初出場にも関わらず日頃の練習の



シマノ鈴鹿ロードの表彰式で笑顔を見せるRGJ福本千佳。幼少の頃から参加している地元のレースでの優勝で喜びもひとしお!



秩父宮杯ロードの表彰式にて女子クラス優勝表彰状を見せるRGJ武田(上写真)。武田は高校生最後の秩父宮杯ロード参加となった。

引き続き各地で活躍するRGJにご声援のほどお願いします!

「秩父宮杯ロード」は九月六日(日)に埼玉県秩父市にて開催されました。第五十七回秩父宮杯埼玉県自転車道路競走大会の女子レースにおいて、RGJの武田和佳、松田千裕両選手が出場。武田選手が優勝を収め、松田選手も六位入賞を果たした。なお、武田選手は昨年も同大会において優勝しており、二連覇達成となった。